

第14回

満月の夜開く けいはんな哲学カフェ「ゲーテの会」

昔から祭りは満月の夜に開かれてきました。“けいはんな哲学カフェ「ゲーテの会」”は、そんな満月の夜に「文明の未来と人類の幸福」について考える会です。高等研の庭にはゲーテの胸像があります。その視線は「フクシマ」のほうを見やりつつ、近代文明の現状を憂いているかのようではありませんか。

けいはんな学研都市の建設理念は、「従来の近代科学技術文明を乗り越え、新たな地球文明を創造するために、西欧が生み出した文明の成果と自らに固有の東洋的文化を総合する」ことにあります。ゲーテの胸像はその理念のシンボルです。今宵、ゲーテに立ち返りながら、近代科学文明のあり方を一緒に再考してみませんか。

(2013年8月21日開催の発足会案内より抜粋)

日時： 2014年 **9月8日** (月) 18:00~20:30

場所： **公益財団法人国際高等研究所**

講演： 未来社会はいかにあるべきかー人類の未来と幸福を考えるー (Part V)

サル化する人間社会

講師： **山極 寿一** 先生

【講演要旨】

長年、二ホンザルやゴリラの群れに入り込んで観察を続けていると、人間とゴリラの違いよりも、ゴリラとサルの違いの方が際立っていることに気付く。近年ゲノムの全配列が解読されて、実際にそれが証明された。その違いを社会で観てみると、人間とゴリラはサルのような優劣に基づく社会を作っていないことにある。もともと少子で成長の遅い特徴を持つ類人猿との共通祖先から出発した人間は、熱帯雨林から出ることによって多産の能力を身に付け、やがて大脳化を実現して共同保育を基本とする社会を作った。それが、言語が登場する前の共感社会であり、人間の身体も心もその社会に合致するようにできている。ところが現代の科学技術は個人の能力と価値を高めるように働いたために、人間社会はサル化し始めた。その実態と解決策について考えてみたい。

【講師略歴】

1952年東京生まれ。京都大学大学院理学研究科教授。1978年よりアフリカ各地でゴリラの野外研究に従事。類人猿の行動や生態をもとに初期人類の生活を復元し、人類に特有な社会特徴の由来を探っている。著書に『家族進化論』(東京大学出版会)、『オトコの進化論』(ちくま新書)、『ゴリラ』(東京大学出版会)、『暴力はどこからきたか』(NHKブックス) などがある。



参加費： **2,000円** (講演終了後の交流・懇談会費用を含む)

定員： **40名** (先着順)

申込： 「参加申込書」(裏面) によりお願いいたします

参加申込書

- 下記に必要事項を記入して、FAX 又は郵送でお申し込みください。
- E-mail でのお申し込みの場合は、以下の内容を記載してお申し込みください。
- なお、申込書記載の個人情報は、当会の開催ご案内等を行うために使用させていただきますが、外部に公開することはありません。

◆ お問い合わせ、お申し込み先 ◆

〒619-0225 京都府木津川市木津川台9丁目3番地

公益財団法人国際高等研究所 事業部

けいはんな「ゲーテの会」事務局 (担当：竹島)

E-mail : goethe0828@iias.or.jp FAX : 0774-73-4005

第14回 満月の夜開く けいはんな哲学カフェ 「ゲーテの会」 2014年9月8日(月)開催		
お名前		
ご所属		
部署		
役職		
連絡先	ご住所	
	TEL	FAX :
	E-mail	

■ 会場案内

